

理工学部男女共同参画推進委員会 主催

理工学部男女共同参画シンポジウム

—男性側からの発信—

2018年11月2日（金）13:00-16:00

神戸三田キャンパス アカデミックcommons 1階シアター

開会あいさつ 13:00~13:10

高橋和子（関西学院大学理工学部教授 男女共同参画推進委員会委員長）

『理工学部の現状および大学の施策』

- ・理工学部における女子学生や女性教員の割合の推移
- ・女性教員増加のためのポジティブ・アクションの導入
- ・男性教員も利用可能なピンチヒッター制度の紹介（理工学部独自）
- ・今後の問題点



講演1 13:10~13:40

酒井大介（SCSK 株式会社 人事グループ人事企画部長）

『多様な力を企業の成長に

～全ての社員がいきいきと活躍する企業を目指した、働き方と人材育成の改革～』

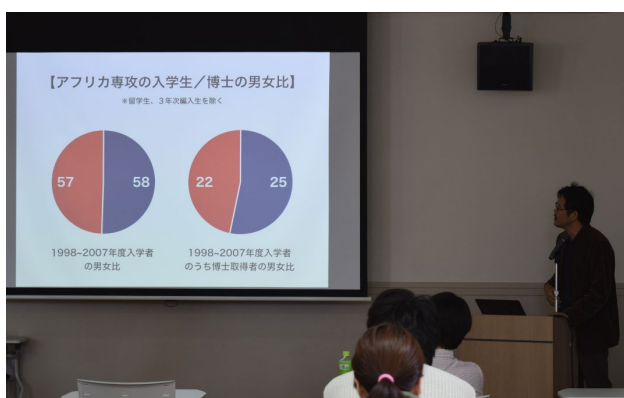
- ・働き方改革以前の企業風土の紹介（負のスパイラル、人材の流出）
- ・働き方改革の具体的事例の紹介
 1. 残業の削減、削減された残業代をインセンティブとして支給（現在は手当化して支給）
 2. 有給休暇の早期取得促進のためにバックアップ休暇（年5日）を導入
 3. 仕事の属人化からの脱却（業務の共有化による、相互バックアップ体制の構築）
 4. 子育て支援およびフルタイム勤務支援のために、転居費用補助制度を導入（従業員の両親または本人家族の引越代を支給）
 5. 育児休業制度の拡充（通算3年、6回まで分割取得可）

講演2 13:40~14:10

安岡宏和（京都大学アジアアフリカ研究センター 准教授）

『アフリカ研究への男女共同参画とフィールドワークにおける工夫』

- ・学科の紹介（学生の男女比や博士取得にかかる年数の平均など）
- ・卒業後任期なしポジション就職前後での子供の有無の男女比の変化
- ・一方で任期つきポジションのおかげで仕事を継続できたケースもあり
- ・ご自身の体験 両親の子育て援助の重要性 地方出身の女性は両親の子育て援助が難しく、仕事を継続するのが困難



講演3 14:10~14:40

山本倫也（関西学院大学 理工学部教授）

『理工学部ピンチセッター制度の利用と育児』

- ・ご自身の研究紹介（ヒューマンインタフェース）
- ・子供が生まれる前と生まれた後の生活リズムの変化：男女均等参画の実践
- ・具体的な子育ての苦労話
- ・ピンチヒッター制度の紹介

ピンチヒッター制度を利用することで、研究時間が短くなっているにも関わらず業績は落ちていない。

パネルディスカッション 14:50~15:50（以下は抜粋）

上記3名の講演者

（進行）井村誠孝（関西学院大学理工学部教授 理工学部男女共同参画推進委員会委員）

- ・男性の育児休暇の取得状況
ドイツは1ヶ月を義務化

- ・ 会議時間について

SCSK は 17:00 以降の会議を原則廃止。会議は出席者と主要時間を限定して実施。

- ・ 働き方のシステム変革を通じて、従業員の意識改革および組織風土の変革にも繋がる。



閉会あいさつ 15:50~16:00

水木純一郎 (関西学院大学理工学部長)

- ・ 女子学生理系進学を増やすためのポジティブアクションの必要性